

第5章 将来ビジョン

将来ビジョン

令和 32 年（2050 年）にゼロカーボンシティを実現した本市の将来ビジョンを描きます。

本市の将来ビジョンを市民、事業者、市が共有し、一体となって取組を進めていくことで、ゼロカーボンシティの実現に向けた機運を高めていきます。将来ビジョンは、市民生活に関わる「暮らし」、事業者の生産活動に関わる「産業」、本市全体のまちづくりに関わる「まち」の大きく 3 つの観点で整理しますが、互いに関連する内容も含まれます。

ゼロカーボンシティの実現に向け、次節に掲載する削減シナリオやロードマップで示す道筋に沿って取組を推進することで、将来ビジョンの実現を目指していきます。

【将来ビジョンの全体像】

「本庄市ゼロカーボンシティ宣言」では、緑豊かで自然に恵まれた環境にやさしいまちを次世代に引き継ぐために、ゼロカーボンシティの実現に挑戦することを宣言しています。

本市は太古の人々の生活が遺跡として残り、また、近世にかけて地域の中心として栄えた歴史を有しています。

また、明治以降も養蚕業によって栄え、近年は本庄早稲田の杜といった新たなまちができています。本市の長きにわたる歴史を通して築いてきたまちを、本市の偉人塙保己一が遺した言葉である、「世のため、後のため」に倣い、継承していきます。

市民、事業者にはカーボンニュートラルの営みが定着しており、「世のため、後のため」になる行動が実践されています。また、各主体が立場の違いを超えて協力するとともに、自らの行動を通じて、「元気と笑顔あふれる人にも環境にもやさしいゼロカーボンシティ」が実現しています。



図 5-1 将来ビジョンの構成イメージ

【暮らし】

後世への思いやりの気持ちが浸透し、日々の暮らしにおいて温室効果ガスを排出しない行動が定着しています。そのような行動の積み重ねによりカーボンニュートラルな暮らしが実現し、さらにこのような生活を支え、利便性を実現する住環境が整っています。そのような環境の中で、健康で快適な生活と温室効果ガス排出抑制が両立し、人にも環境にもやさしい暮らしが実現しています。

気候変動への対策としてその重要性を一人一人が認識するとともに、先進技術が広く普及することで、移動手段や消費活動、余暇の過ごし方にもカーボンニュートラルに資する行動が浸透しています。また、家庭においては、太陽光発電等の再生可能エネルギー設備や高効率機器が使用され、省エネルギーフォーム・断熱リフォームが行われています。新築の住宅については地域森林で生産された木材が利用されるとともに、省エネルギー設備と再生可能エネルギーが導入された ZEH が普及しています。さらには AI・IoT 技術を活用した効率的な生活スタイルが実現しています。

また、太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及と同時に、寿命を迎えた設備の廃棄やリサイクルの仕組みが整っており、後世への責任を果たしつつ安全安心な創エネルギー環境が形成されています。

家庭における再生可能エネルギーの導入や楽しく省エネルギーの取組を行うことによって「暮らし」の将来ビジョンの実現を目指します。

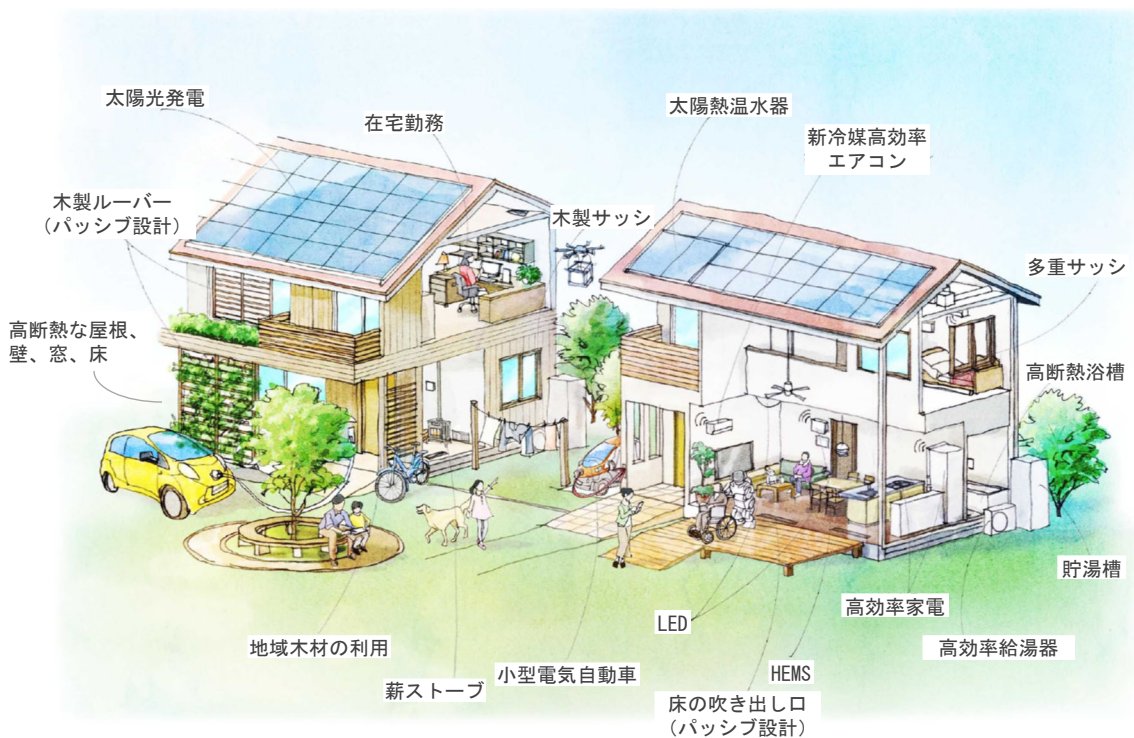


図 5-2 「暮らし」のイメージ

資料：中央環境審議会地球環境部会「長期低炭素ビジョン」を一部改変

【産業】

古くは鎌倉街道や中山道、現在では関越自動車道の本庄児玉インターチェンジや上越・北陸新幹線の本庄早稲田駅もあり、本市は交通の要衝としても機能しています。また、明治の近代化の過程で、木村九蔵が新たな蚕の飼育法を考案し、生涯をかけて養蚕業や蚕業教育の発展に尽力するなど、本市は革新を起こす気風も有しています。工業団地をはじめとしてカーボンニュートラルを志向する企業等の進出が進むとともに、脱炭素経営への転換が行われ、発展を続けています。脱炭素経営を行うことで企業価値が高まり、活力あふれる企業の成長が実現しています。

さらに、自社施設のカーボンニュートラルを行うだけでなく、産学官の連携を通じてカーボンニュートラル関連技術や、さらにその後の新たな時代に向けた技術革新を続けています。

また、まちなかの事業所においても、例えば、小売事業者・飲食事業者がプラスチックの代替品であるバイオプラスチック、紙製品を使用するといった、温室効果ガスを排出しない行動が、暮らしに身近なところで実践され、拡がりを見せています。

企業単独ではなく、カーボンニュートラルに取り組む市内事業者間で情報交換が行えるプラットフォームの創設を通じて、事業活動におけるカーボンニュートラルの取組を加速させ、「産業」の将来ビジョンの実現を目指します。

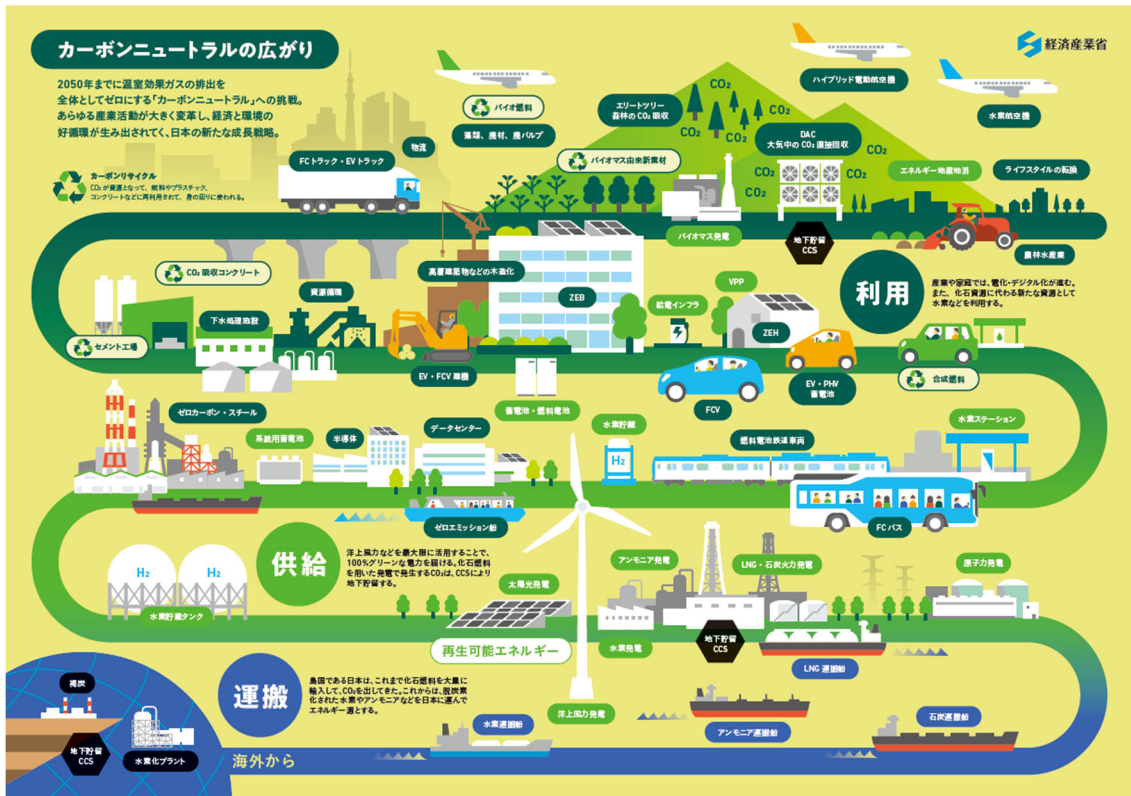


図 5-3 「産業」のイメージ

資料：資源エネルギー庁ホームページ

【まち】

かつて、江戸時代（天保年間）には、中山道最大の宿場町として、にぎわいをみせていました。それから約 200 年経った令和 32 年（2050 年）においても、太陽光発電をはじめとした次世代エネルギー導入と緑豊かで自然に恵まれた環境が調和し、にぎわいと活気にあふれ、行きかう人々がみんな笑顔で過ごしています。

市内には、電気自動車をはじめとした次世代自動車が走行しているほか、MaaS を活用した利便性の高い移動手段や自動運転、電気自動車のカーシェアといった新たな技術やサービスの普及により、カーボンニュートラルに貢献する移動手段が充実しており、さまざまな選択肢が提供されています。同時に、スーパーマーケットや商店街等のあらゆる場所に電気自動車の充電設備が設置されているなど、移動方法だけでなく、快適な利用環境が整備されています。

また、駅を中心としたまちなかや中山道沿い等は、居心地が良く人にやさしい、歩いてみたくなる空間としてにぎわいと活気にあふれています。

さらに、停電時における備えとして、住宅や事業所、公共施設、商業施設等に太陽光発電と蓄電池が導入されているほか、電気自動車を蓄電池として活用することによって、災害時における電源確保が可能な環境が整っており、安全安心に暮らせるまちが実現しています。

移動の脱炭素化や本市の豊かな自然環境の保全による二酸化炭素吸収源対策を通じて、「まち」の将来ビジョンの実現を目指します。



図 5-4 「まち」のイメージ

資料：国土交通省ホームページ

削減シナリオとロードマップ

ゼロカーボンシティの実現に向けて、温室効果ガス排出量削減の中期目標・長期目標や再生可能エネルギーの導入目標、指標の達成に必要な取組に関するシナリオとロードマップを設定します。

【削減シナリオ】

ゼロカーボンシティの実現に向けた中期目標・長期目標のシナリオを作成しました。

中期目標については、市民、事業者に対する地球温暖化対策の取組意義や効果の普及啓発を通じて、各主体が一体となった省エネルギー活動を推進するとともに、再生可能エネルギーの導入拡大に取り組むことで達成を目指します。

また、長期目標については、令和12年度（2030年度）以降の技術革新を背景に、最先端技術の導入やゼロカーボン産業の活性化等、地球温暖化対策の加速化を視野に入れて取組を進めます。

なお、削減シナリオ及びロードマップは、温室効果ガス排出量や中期目標の達成状況、社会情勢等を踏まえて、次期計画策定において更新を行います。

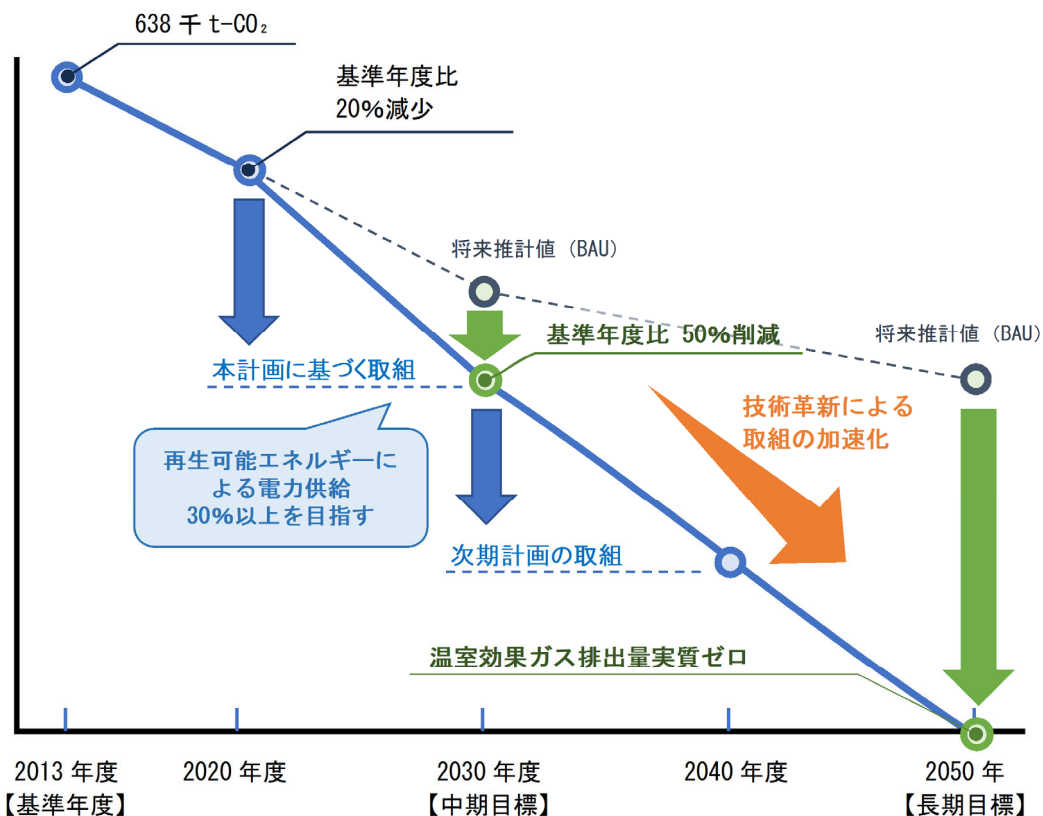


図 5-5 温室効果ガス排出量削減目標の達成シナリオ

【ロードマップ】

ゼロカーボンシティの実現に向けた取組に関して、令和 32 年（2050 年）までのロードマップを作成しました。

	2030	2040	2050
再生可能エネルギー、次世代エネルギーの導入	エネルギーミックスの検討	脱炭素なエネルギーの供給と選択の促進	
	太陽光発電設備の導入拡大		
	水素に関する普及啓発、導入検討		
	市内の再生可能エネルギー電力の供給体制の構築	市内の再生可能エネルギー電力の供給、地産地消	
	再生可能エネルギー電力・プランの選択		
省エネルギーの取組	ZEH・ZEBの普及・定着		
	家庭・事業所における省エネルギー活動の推進		
	ゼロカーボンに資するデジタルインフラ、先進技術（AI、IoT）の普及		
推進体制の構築	ゼロカーボン教育の啓発・推進		
	事業者に対する普及啓発		
	中小事業所との勉強会、取組の拡大		
	先行事業者との勉強会、事業創出		
	産学官の連携による本庄市版ゼロカーボン産業の研究		
	ゼロカーボン産業の誘致、地域産業振興		
産学官の連携によるゼロカーボン技術の研究、新技術の開発			
移動の脱炭素化	次世代自動車の普及促進、定着		
	充電設備の拡充	水素ステーションの拡充	
	公共交通利用システムの検討（AI、MaaS）		社会実装
	ウォークアブル空間の創出		
廃棄物処理における脱炭素化	ごみの減量化（3Rの推進、食品ロス低減）、廃プラスチックのリサイクル		
CO ₂ 吸収源対策	森林等のCO ₂ 吸収機能に関する普及啓発		
	森林・農地の保全、緑化の推進		

図 5-6 ゼロカーボンシティの実現に向けたロードマップ